

在ドバイ日本国総領事館附属  
ドバイ日本人学校

学校だより  
第10号

在籍数 小99・中30 計129名

平成31年2月5日

# 熱砂

発行責任者

校長 山本 昭比古

編集担当 教務部 内藤 竜也

## パワー全開！！絆を強めた運動会

教頭 白木 一郎

今年度はインフルエンザによる延期もなく、当初の予定通り2月1日（金）に第38回運動会を行いました。当日は好天に恵まれ、それほど風も強くなく、絶好の運動会日和となり児童生徒のみんなが日頃の成果を十分に発揮することができました。また、今回は日本人会種目も行われ、盛り上がった運動会となりました。

「全色 全力」のスローガンの下、各種競技では一人一人が真剣な眼差しで全力を出し切ろうとする姿、応援合戦では各色が創意工夫を凝らして皆で一つのものを創ろうと協力する姿をみることができました。

これまでの練習も含め、上級生は下級生を上手にリードしてきました。また、仲間に常に声援を送り続ける姿もとても印象に残ります。このような上級生の行動や態度が「手本」として下級生によき伝統として受け継がれていくものと思います。

ご来賓の方々、保護者や関係者の皆様、子どもたちへの励ましやご声援、運営面でのご協力などをいただきありがとうございました。改めて感謝申し上げます。



# 来年度の教育課程について

## ～G3. 4の外国語活動, G5. 6の外国語はどうなる?～

教務主任 遠藤 孝

日頃より本校の教育活動にご理解とご協力をいただきまして、誠にありがとうございます。現在、本校では、次年度に向けて様々な準備を進めております。その大きな柱の1つが小学部における英語教育の準備です。

2020年度から施行される新しい「学習指導要領」では、現在5・6年生で必修となっている「外国語活動」が前倒しされて3・4年生で必修になり、5・6年生では英語が教科となります。ドバイ日本人学校では、更に1年前倒しし、2019年度より先行実施します。これまでの外国語活動の「聞く」「話す」中心のところに「読む」「書く」の指導も加わり、4技能の力を伸ばしていくために、より強化していきたいと考えています。

小学校でまず「聞く」「話す」から始め、段階的に「読む」「書く」の活動にも取り組んでおくことで、中学校での英語学習に無理なくつなげていこうというのが、新しい「学習指導要領」の意図するところであると私は理解しています。

特に大切なのは「聞く」経験をたくさん積むことであると思います。まずは聞くことから始まり、その意味がわかったことを、次に話せるようになると思います。英語も同様に、まずは「聞く」ことを通じて、英語の音声に慣れ親しむことから始めることが重要と考えます。

小学校の「外国語活動」では、歌やゲームなどを通じて英語の音声に慣れ親しむ活動が中心になりますが、これは決して"遊び"ではなく、文字の読み・書きをする前に音声として親しみ、「聞く」「話す」ことができるようになっていくことが言葉の習得において必要だと考えます。教科化される5・6年生の英語の授業でも、外国語活動と同様に「聞く」「話す」ことがベースになります。

一見、「簡単過ぎるのでは?」と思われる外国語活動、5,6年生の英語ですが、中学校英語に向けての基礎固めと位置付け、指導法を工夫しながら取り寄せたいと考えております。また、小学校の英語教育では、さまざまな言語や文化への関心を広げていくことも重視されています。各ご家庭におかれましては、テレビのニュースなどで外国語が聞こえてきたら、外国語や外国の文化に興味を持てるようなお声掛け等のご協力をいただければと思います。



### 1月のトピックス

### ミナレ中間発表



2月14日に予定しているミナレ発表会に向けて、G4からG9の児童生徒が中間発表を行いました。発表後、互いにアドバイスを伝え合いました。児童生徒は友達のアドバイスを受けて、より良い発表作りに取り組んでいます。ミナレ発表会が楽しみです。

### 図書寄贈ありがとうございます!

1月29日に図書の寄贈のため中東日産の近郷智史様が来校されました。日産では子どもたちの健やかで豊かな心の成長を願い「童話と絵本のグランプリ」受賞作品を日本や世界の学校に寄贈する活動を毎年されています。

子どもたちの読書活動に活用していきます。

